

平成 24 年 11 月 13 日

各 位

大阪 市 中 央 区 瓦 町 三 丁 目 5 番 7 号
株 式 会 社 ア ド バ ン ス ク リ エ イ ト
代 表 取 締 役 社 長 濱 田 佳 治
(コード番号 8798)
(連絡先) 執行役員 管理部長 大原 勲
電話 06-6204-1193

アドバンスクリエイトの平成 24 年 9 月末 プレゼント・バリュー（一部）の開示（12 回目）について

株式会社アドバンスクリエイト（大阪 市 中 央 区、代表取締役社長：濱田 佳治、以下、「アドバンスクリエイト」）は、保険代理店である当社が獲得した保険契約から見込まれる将来手数料収入が当社の企業価値に与える貢献度を表すための参考指標として、平成 18 年 9 月末より半期毎にプレゼント・バリュー（Present Value：以下「P V」）を算出し、開示しております。

今般、「平成 24 年 9 月末の P V の一部数値」を算出いたしましたので以下の通りお知らせします。

1. P V について

P V（ストックベース）とは、当該の会計期末に有効に存続する契約を基に、期末以降将来に発生する保険手数料の収入見込額（未実現分）を後記の前提条件に基づき評価した金額の現在価値を表します。

現行の会計制度上、上記契約に対応する営業費用は発生時に全額費用計上されますが、損益計算書上で既に営業収益として認識した手数料を除いて、収益の一部は将来実現した時点で計上することとなっております。従いまして、保険代理店事業は、新規保険募集に関わる費用が先行しますが、保有する既存契約から長期にわたり収益の一部を享受するという収益構造ですので、新規契約獲得から会計上の利益の実現までにタイムラグが生じます。

以上の通り、P V は、ストックとして保有する契約から得られる将来の利益貢献を示す指標であり、保険代理店である当社の企業価値を評価する有力な指標の 1 つとしてまいりました。平成 18 年 9 月末以降、P V は現行の法定会計を補完する指標の 1 つとして客観性を有するべきと考え、第三者専門機関にレビューを依頼し、その結果をご報告するものであります。

2. 平成 24 年 9 月末 P V（主要 8 社）

平成 24 年 9 月末 P V（主要 8 社）は以下のとおりであります。

平成 24 年 9 月末残高 P V	4, 9 4 6 百万円
--------------------	--------------

平成 24 年 9 月単月手数料収入の内、上記 8 社のシェアは概ね 79% ですが、8 社に関するレコード数は 326, 143 件中、317, 465 件（97%）を対象として算出しております。

なお、残高 P V から損益計算書上で既に営業収益として計上済みである将来手数料は控除されています。

（ご参考）前回発表時の平成 23 年 9 月末残高 P V

平成 23 年 9 月末残高 P V	4, 033 百万円
--------------------	------------

平成 23 年 9 月単月手数料収入の内、上記 8 社のシェアは概ね 75% ですが、8 社に関するレコード数は 283, 708 件中、275, 608 件（97%）を対象として算出しております。

算定にあたって使用した主要な前提条件は以下のとおりです。

項 目	設 定 方 法
① 割引率	評価日時点の国債利回りに基づいて算出したリスクフリー・レート（*1）
② 死亡率	社団法人日本アクチュアリー会算定の標準生命表 2007 に基づいて計算される無配当死亡保険用死亡率の 100%(*2)
③ 解約失効率	対象保険会社から提供された 2009 年 4 月～2012 年 3 月までの契約異動データに基づき、保険会社別、保険年度別に算定（*3）
④ 更新率	対象保険会社から提供された 2009 年 4 月～2012 年 3 月までの契約異動データに基づき保険会社共通の率を算定（*4）
⑤ 手数料率	対象保険会社から提供された 2012 年 3 月単月（直近）の手数料データに基づき、一定の群団毎に算定した平均的な手数料率
⑥ 手数料戻入率	対象保険会社から提供された 2009 年 4 月～2012 年 3 月までの各月のデータに基づき、保険会社別に算定（*5）

*1) 従来は、割引率として全期間に亘り単一のレートを設定していましたが、保険数理的企業価値評価方法に関する業界実務における割引率の取り扱いを参考に見直しを行いました。

*2) 自動車保険については死亡率を適用しておりません。

*3) 更新後契約については保険年度別に保険会社共通の率を算定しました。

*4) 損害保険の一年更新契約は対象保険会社から提供された更改率により更新するものとししました。

*5) 一部の保険会社の経験については、対象保険会社から実績が提供された 2012 年 3 月までのデータに基づき手数料戻入率を算定しました。

3. 平成 24 年 9 月末 P V（主要 8 社）の感応度分析

割引率を 1%および 2%引き上げた場合、解約失効率前提を増加・減少させた場合の感応度は以下のとおりとなりました。

前提条件	残高 PV	増減額
ベースケース	4, 9 4 6 百万円	
割引率 1%上昇	4, 7 4 5 百万円	▲ 2 0 1 百万円
割引率 2%上昇	4, 5 6 0 百万円	▲ 3 8 6 百万円
解約失効率 10%増加	4, 7 9 4 百万円	▲ 1 5 2 百万円
解約失効率 10%減少	5, 1 0 2 百万円	1 5 6 百万円

4. 全会社に対する試算

上記のベースケースの算出結果は主要 8 社（9 月単月手数料収入の内、7 9 %のシェア）の 9 7 %のデータにて算出されたものです。仮に計算対象外の部分が計算対象とされた部分と全く同様の構造をしていると考え、全会社のデータを使用した場合の（1 0 0 %）水準を簡便的に割り戻して推測した場合の計算値は以下のとおりとなります。

平成 24 年 9 月末残高 P V	6, 4 5 4 百万円
--------------------	--------------

（ご参考）当社独自の計算方法（申込みベース）による平成 24 年 9 月末 P V

平成 24 年 9 月末残高 P V	8, 4 4 5 百万円
--------------------	--------------

5. 第三者機関による意見書

アドバンスクリエイトは、専門的な知識を有する第三者機関有限責任監査法人トーマツに P V に関する計算手法、計算前提および計算結果のレビューを依頼し、以下の意見書を受領しています。有限責任監査法人トーマツの意見は、主要 8 社に関する P V のベースケースおよび感応度に限定されています。

有限責任監査法人トーマツ（以下、「トーマツ」）は、株式会社アドバンスクリエイト（以下、「アドバンスクリエイト」）の依頼により、平成 24 年 9 月 30 日現在のプレゼント・バリューの開示資料（以下、「開示資料」）に記載されたプレゼント・バリューが従来から行われている保険数理的企業価値評価方法に関する業界実務に基づいて計算されているか否かの検証を行いました。

トーマツが検証した対象は、適用した計算方法、計算前提および計算結果としてアドバンスクリエイトが計算した平成 24 年 9 月 30 日現在のプレゼント・バリューと計算前提を変えた場合のプレゼント・バリューの感応度です。

検証対象は、従来から行われている保険数理的企業価値評価方法に関する業界実務に基づいてアドバンスクリエイトにより計算されたものであり、プレゼント・バリューの計算前提、計算方法、開示資料内の情報は全てアドバンスクリエイトの取締役会の責任のもとに設定され、プレゼント・バリューは開示資料に記載したアドバンスクリエイトの方法でアドバンスクリエイトにより計算されたものです。

トーマツは、プレゼント・バリューの計算結果が重大なエラーなしに計算されているという合理的な根拠を得るために、保険数理的な業界実務とプロセスに基づき、合理性の検証、分析的検証お

よび事務的正確性の検証を実施しました。

トーマツの意見は以下の通りです。

- 1 アドバンスクリエイトは多数の保険会社の契約を販売していますが、プレゼント・バリューの計算対象はそのうちの主要 8 社（以下、「計算対象会社」）を対象としています。本意見書の対象範囲は、計算対象会社に対するプレゼント・バリューに限定されています。計算対象会社以外のプレゼント・バリューについては意見の対象ではありません。
- 2 適用された以下の計算方法等は、従来から行われている保険数理的企業価値評価方法に関する業界実務と適合するものです。
 - 2.1 計算対象会社における計算対象範囲
 - 2.2 将来の手数料収入見込額とその割引現在価値の計算方法
- 3 継続率等の事業前提は、アドバンスクリエイトの事業の特性を考慮し、過去、現在および将来期待される実績を考慮した最良推計に基づき設定されています。
- 4 経済前提は、前提相互間で整合的であり、計算基準日時点の経済状況を参照して設定されています。
- 5 計算結果は、適用された計算方法と計算前提のもとで計算されています。ただしこれは、トーマツによる検証が、計算モデル、計算過程および計算内容の全てに関する完全な検証を意味するものではありません。トーマツは、重大な影響を及ぼす範囲において、計算結果が適用された計算方法と計算前提のもとで計算されていることを確認しました。

検証を行うにあたり、トーマツはアドバンスクリエイトより提供されたデータと資料に依拠しています。これら資料についてのトーマツによる独立した確認作業は行われていません。

トーマツは、アドバンスクリエイトの財務諸表(連結財務諸表を含む。以下同じ。)の監査はしておりません。そのため、財務諸表の正確性については意見の対象外であります。

プレゼント・バリューの計算で使用する将来予測は、現在および将来の事業環境について設定された様々な前提に基づいて計算されますが、その多くはアドバンスクリエイトの管理が及ぶ範囲ではなく、一般に、前提条件と将来の実現値とは異なる可能性があります。前提条件と実現値との乖離は、計算結果に重大な影響を及ぼす場合があります。

プレゼント・バリューは、実際の市場価値についての意見を表明することを意図するものではありません。市場価値の形成に必要とされる多くの要素をすべて織り込んでいるわけではないため、そのように解釈されるべきでもありません。

この意見はアドバンスクリエイトとの契約に基づき、アドバンスクリエイトのみに対して提供されるものです。適用される法律において許容される限り、トーマツは、トーマツが行った検証作業やトーマツが作成した意見および意見に含まれる記述内容について、アドバンスクリエイト以外のいかなる第三者に対しても、一切責任、注意義務あるいは債務を負いません。

以上